特集3

関心が地域をつくる『クラウドファンディング』で見えた希望と未来

元せいよ地域おこし協力隊
卯之町バールOTO店主　藤川　朋宏

はじめに

私は、18歳で大学進学を機に上京し、約13年間東京で暮らしていました。東京では、ダイニングバー、イタリアンレストランと、10年以上飲食業をしてきました。

東日本大震災後、自身の結婚を機に地元である愛媛県へ帰ることを考え始め、地元のためになにか役に立てることはないか、とも考えるようになりました。

そんなある日、西予市が〝地域おこし協力隊〟を募集していることを知り、西予市のHPを確認すると、なんと締め切りの2日前。なにかの運命だと信じ、迷わず応募をしました。

そして、2015年4月より〝せいよ地域おこし協力隊〟としてUターンで着任しました。

喫茶春名との出会い

西予市宇和町、この地には日本伝統の弁柄色に漂う重要伝統的建造物群保存地区（以下　重伝建地区）があります。

江戸中期から昭和初期まで宇和島藩の在郷町・宿場町として栄え、商家が立ち並び、白壁、うだつ、はじとみ、出格子など伝統的な建築様式なども残っており、付近には、伝統的木造建築の中に洋風のアプローチ型の窓をとりいれたモダン建築が特徴の開明学校、江戸時代後期の蘭学者である高野長英の隠れ家などもあり、当時の雰囲気を感じさせる地区です。

町並み

着任後、以前と比べて静かに感じたこの街で、最初に目についたのが重伝建地区にあり、空き店舗となっていた「喫茶春名」でした。

ひっそりとたたずむ「喫茶春名」は、その中においても一際美しいたたずまいをしているように見えました。まさに、一目惚れに似た感覚でした。

改装前

お店を営まれていたおばあちゃんは、体調を崩して10年以上休店状態だと聞き、「このまま老朽化していく姿は見たくない」と、私はそう強く思いました。

また、重伝建地区では現在空き家が増えており、観光客や地元住民がお茶を飲んで休む場所もほとんどありません。

『地域の風情を残しながら、来ていただく皆さんに温かいお茶を』というおばあちゃんの意思を継ぎ、良き日本の残された伝統を大切にしながら、昔のように人の集える、賑わいのある場所として、重伝建地区のコミュニティをこの「喫茶春名」で作っていきたいと考えました。そして私は、「喫茶春名」を新たにcafé barとして利活用することに決めました。

これまでの経験を活かし、いろいろな角度から物事を見つめ、風情ある文化を継承発展させたいと思い始めたのです。

地域課題とコンセプト

古きを大切に、新しきを取り入れる「不易流行」をコンセプトに、衰退する地域の伝統を大切にし、人と人を繋ぎたいと考え、この「喫茶春名」を核として地域の抱える課題をできる限り解決したいと考えました。

1 山から海まである西予市は、とにかく食べ物が新鮮豊富で美味しい。この食材を使っておいしい料理を提供することで、小さいながら地元産業への貢献とならないか。

2 担い手不足で廃止される地域イベントを再開させ、重伝建地区の魅力を伝えていきたい。

3 働くお母さんを助ける関係と環境づくりに力を入れ、子育て世代の不安を少しでも軽減したい。

4 空き家利活用の魅力などを自ら先導して伝えていきたい。

5 知名度の低い西予市を、SNSなどを活用して若者を中心に情報発信をしていきたい。

以上のことを、できることからコツコツと実施していきたいと思いました。

クラウドファンディング官民連携プロジェクト

起業するにあたって大きな壁の一つといえるのが、資金の問題です。

地域おこし協力隊の起業は年々増加傾向にありますが、起業を目指す県内外の協力隊とお話しをすると、やはり『資金調達が難しい』といった意見が多くあるように感じています。もちろん、私もその壁にぶち当たった一人です。

工事の様子

内部

オープン

しかし、そのような中、総務省より地域おこし協力隊へ向けての起業支援プロジェクトが、2016年4月より新たに始まるとの一報を受けました。

具体的には、ふるさと納税制度を活用して地域おこし協力隊員等のビジネスプランを応援する、その名も〝地域おこし協力隊クラウドファンディング官民連携プロジェクト〟です。全国の地域おこし協力隊員等のビジネスプランを、全国の方に応援していただけるプラットフォームを民間企業等の協力の下で構築されたこのプロジェクトは、非常に画期的であり魅力のあるものでした。課題であった起業にかかる資金の調達手段として、私はそのプロジェクトに挑戦することに決めました。

全国で初の取り組みということもあり、2016年4月11日、都内にある「移住・交流情報ガーデン」で、高市総務大臣をはじめ、多くの関係者が一堂に会し共同記者発表が行われ、同日にクラウドファンディング官民連携プロジェクトは開始されました。

（クラウドファンディング実施期間2016年4月11日～7月31日まで）

当初私は、『関心を持っていただけるだろうか』『考えを受け入れていただけるだろうか』など、やる前から不安は多くありました。

しかしながら結果は、全国各地から多くの方々のご支援・ご協力により、目標としていた300万円を大きく上回るご寄附をいただきました。また、多くの方からの応援メッセージや取り組みについての関心の高さに、気の引き締まる思いと、重伝建地区において「喫茶春名」がこれまでも、そしてこれからも求められているのだと強く感じました。

私にできるコト

自分のやりたいことを楽しみながら持続させ生活を営んでいくことが、地域にとっての幸せにつながっていくと私はずっと信じてきました。もちろん、今もそう思っています。

地域を愛して、地域に誇りを持ち、地域の中で、地域の資源で、時には馬鹿なことをしている姿をまた次の世代に見せていく、というよりも一緒になって楽しんでいく。それこそが地域づくりであり、地域おこしになっていくのではないかと思っています。

私にできるコトはとても小さなコトですが、そのコトが人を呼び、またその人からコトが生まれていく。そのようなシンプルな流れの1ピースとして、これからも地域に少しでも貢献できるよう努めていきたいと思います。